









































































大磐祭りと其の由来
昔、十戸の町ありて、皇族を祀りし新屋村
今も名残りの町新屋と草法に傳ふる山嶺ある
新屋に承元元年(一一〇七)頃阿波五郎兵衛
と云ふ人物を中心大室山を町であり磐盛
を極めた時代もあつたが元龜二年(一五七二)
越中一向一揆をい上杉謙信によつて神
社仏閣は焼き払われ越中進攻が度重なりた
災災の附、住吉神社の神石も信仰的として
附近の池に投げ込まれて其の後、村人
達の手によつて七月二十四日(現在の磐盛祭
りの日)に引き上げられ再びこの神石が今日
まで目取り、奥より稲作の秋実実等の厄除け
の神としてあがめ、一方近郷近在の磐盛、荷
取鬼き等の力試しの石として今日に至る
昭和の初期に境内の旧街道側にあつた石を
現在地に移したものでその重要は昔は一〇七
十戸もあつたと言われていたが相傳もあり
見てもまじくは口伝といふに取定される



















大蛇祭り
新尾に水元寺(二二〇)
志守人物を中心に大蛇祭り
本社の時代も一八八九年(二二)
船中の向一柳を巻いた上村律任上二下神
社が閉じられ私れて船中遊戯が重要な一た
聖霊の祠、住吉社の神若も住持的のまして
附設の池に投げ込まれていたが長の渡、村人
達の手によつて七月二十四日(現在の土着祭
りの日)に引き上げられ再びこの神倉が今日
まで目醒り、水より船倉の成水寺等の足跡け
の神としてあがめ、一寺の神宮在の堂々、時
承元寺の方試しの存在して今日に在る
昭和の初期に境内の田圃道にありたるを
現在地に移したものでその事は昔は一〇七
半口もあつたと言われていたが損傷もあり
現在では九十五口位と推定される
新尾商工会























